



R I 第 2820 地区 第 7 分区

竜ヶ崎ロータリークラブ 週報

—本日のプログラム—

移動例会所(東京都 江戸風鈴本舗)

観桜会: 新宿御苑

—次回以降のプログラム—

4/11 祝事、会長エレクト研修セミナー報告(寺田寿夫君)

4/18 会員卓話「レントゲン機械の贈呈式報告」

(寄贈先病院訪問と第 3810 地区大会への出席者)

4/25 地区研修・協議会(於:つくば国際大学)報告



人類に
奉仕する
ロータリー

4 月は「母子の健康月間」です

今月は「母子の健康月間」です。今なお世界では出産 1000 件あたり 2 人の妊産婦と 20 人の新生児が命を落としています。それは我が国の場合の 20～50 倍の死亡率であり、その数字には驚くばかりです。妊産婦の死因としては分娩時の出血・感染症・中絶による合併症等が、新生児と幼児の死因としては、早産・栄養不良・感染症等があげられますが、いずれも適切な医療サービスの提供・家族計画の指導・疾病予防の啓発・栄養失調の予防といったケアに取り組むことで、多くの命を救うことができます。R I 理事会は、2014 年から 4 月を「母子の健康月間」と定めて、母子に対する基本的な医療サービスの提供と、母子の健康に関連した仕事に従事する専門職業人の支援を強調する月間としました。そして今、ロータリーは世界各地で母子の健康を改善し、妊婦・乳幼児の死亡率を減らすための活動をしています。家庭・地域社会および世界の健全な発展と平和の願いは母子の健康を抜きにしては語れず、ロータリアンとして重点的に取り組まねばならない問題なのです。

第 2793 回例会記録 (2017 年 3 月 28 日開催)

点鐘・ソング	佐伯会長 ・ それでこそロータリー
ゲスト	佐々木 俊弥 様 (スローフード協会杉並代表)
ビジター	中村 康博 様 (牛久RC)
会長報告 佐伯会長	・次回の例会は4/8(土)の観桜会で移動例会になります。10時頃に篠原風鈴本舗で職場見学をした後、ホテルニューオータニで昼食。そのあと新宿御苑で桜を鑑賞してから、3時半に六本木の花魁ショーを見ながらお酒と軽い食事をとって、龍ヶ崎に着くのは夜の7時頃という予定になっております。それで集合は8時半と書いてありましたが8時に集合して集まり次第出発しますのでお間違いのないようお願い致します。

	・フィリピンでレントゲン機器贈呈の調印式があるため先方のマニラに3/31~4/1まで竜ヶ崎RCを代表して5名の方がいらっしゃいます。本当は私も行かなくてはならないのですが、どうしても仕事の関係で行くことが出来ませんので、糸賀パスト会長に私の代理をお願いし快く引き受けて頂きましたのでありがとうございます。3/31は成田に7時半に集合になっておりますのでどうぞお気をつけてお出かけ下さい。
幹事報告 滝澤幹事	・例会の変更: 龍ヶ崎中央RC 3/31(金)→4/1(土) 苦小牧東RC創立 25 周年式典 4/7(金) 観桜会 於:花の家(印西市) ・回覧: 水戸RC、水戸西RC 週報 第18回ロータリー国際囲碁大会のご案内 6/3 於:台湾 〆切 5/20 * 参加したい方は幹事までお申し出下さい。
委員会報告 出席委員会 大貫委員長	会員 34 名、出席 30 名 出席率:88.24% 先々週の訂正出席率:94.12% 欠席: 大竹君、杉野(美)君、片平君、工藤君 メイクアップ: 地区補助金セミナー(関野君)、米山記念奨学会委員会(菊地君) PETS(倉沢君、寺田君)、牛久RC(阿部君)

ゲスト卓話「生物多様性と伝統野菜」

佐々木 俊弥 様 (スローフード協会杉並代表)

こちらでお話させていただくのは4回目になります。前回(2015 年 11 月 17 日)は「スローフードと健康」のテーマでお話させていただきました。今回は、「生物多様性と伝統野菜」と少し固い内容に見えますが、「地域の野菜・果物」を大切にすることがこれからの地域経済に大切なことを紹介したいと思います。



■スローフードと生物多様性

スローフード協会が2年に1回イタリアのトリノで開催する最大のイベント「テッラマードレ・サローネデルグスト」が昨年 9 月、初めて屋外で行われるイベントとしてトリノ市中を善き込んで開催されました。

5日間の期間中に全世界から 30 万人の人が参加するこの催しの最大のハイライトは、夕方からトリノの街を3万人の人たちが“あらゆる人に持続的な食の未来”を訴えながら行進した「テッラマードレパレード」でした。

スローフードは世界 160 ヶ国に広がる、世界で最も広がりを持った運動体の一つと言えます。今日の食をめぐる問題は世界につながっており、しかし持続可能な将来に向けて活動する単位は「地域」で行う。グローバル+ローカル=グローバルな運動を地域地域で行いながら世界中でネットワークをつなげていく、というのが、スローフード運動の肝の部分です。



地域が単位となるということは、その地域の文化や暮らしを育んできた産品や食の伝統を守る、ということからスタートしていくことです。それを、スローフードでは「生物多様性の保護」とうたっています。

具体的には「味の箱舟」というプロジェクトで、放っておけば消失してしまいかねない産品・加工品・料理法などをリストアップしており、現在 4,200 以上がリストアップされています。

それを「プレシディア」(砦)というプロジェクト(現在 500 品目以上)で経済的に回っていくように支援していくかたちで世界中で情報を共有しています。

■F1、固定種、在来種、伝統野菜

地方創生が求められる日本では、「伝統野菜」「在来作物」と呼ばれる地域に根付いた作物をリストアップして守り、それらを「地域の宝物」として守り、地域再生のカギとして活用していく動きが各地で活発になっています。

東京では、「江戸東京野菜」と称して伝統野菜を守る動きが活発化しています。

江戸時代、庶民が豊かになったため三食白米を食べるようになり、過食から脚気が流行、「江戸わずらい」と呼ばれました。「もっと野菜を食べよう」と幕府が奨励し、大名たちは郷里から農民を江戸に連れてきて、下屋敷で様々な野菜を作り始めました。それが今日もまだ残っており、練馬大根、小松菜などがその例です。

「江戸東京野菜」の定義は、

1. 季節限定で“旬”がある、東京の伝統野菜
2. 自家受粉でタネを採ることができる固定種
3. 江戸～昭和の各時代に都民の食生活を支え、食文化を育んだ野菜と定められています。

このうち、「2. 自家受粉でタネを採ることができる固定種」に注目してみます。

以前もこちらでお話したことの重複になりますが、農家は「F1」と呼ばれる一代限りのすぐれた利点を持つ種を種苗会社から買って植え、収穫しています。F1から採れた種は、F1が持っていた利点をメンデルの法則で持ちえないため、農家は毎年、種を買うことになります。

ただ、一方で作物から種採りをしてそれを植えて収穫し、また種を採って植えて……と、繰り返すうちに種は「固定」されていきます。これが固定種です。そしてその土地独自の風土、水、気候によって在来種というその土地独自の作物となっていきます。

しかし、固定種、在来種はF1と比べて収量が少ないため、農家はなかなかF1の種を買うことから抜けられませんが、ただ時代も変わり、高くても希少性のある、その土地独特の作物を求めるレストランや野菜が増えてきており、少しずつこうした作物を作る農家も増えてきています。「伝統野菜」ということで行政が後押しをすることで、農家もさらに作りやすくなっていくかもしれません。

■東京、信州、山形の伝統野菜

「江戸東京野菜」には様々な作物がリストアップされていますが、「内藤とうがらし」という、かつての内藤藩が新宿御苑のあたりに下屋敷を持っており栽培していた作物を復活させ、苗を配って学校で栽培を奨励したり、内藤とうがらしを使った商品を新宿のデパートやレストランで開発したりしているグループがあります。歌舞伎町の花園神社でも内藤とうがらしは積極的に栽培されています。

開発が進む新宿という街が、内藤とうがらしという作物で歴史的魅力を付加するかたちで町おこしの一例になっていると言えます。



信州でも「信州伝統野菜」を積極的に守りかつ地域独自の魅力としてアピールしています。

信州ではちなみに、伝統野菜の定義を、

【来歴】

地域の気候風土に育まれ、昭和 30 年代以前から栽培されている品種であること。

【食文化】

当該品種に関する信州の食文化を支える行事食・郷土食が伝承されていること。

【品種特性】

当該野菜固有の品種特性が明確になっていること。

と定義しています。こちらにも、実に様々な作物がリストアップされています。

山形では「在来作物」と呼んで、山形大学が県内をくまなく調査しながら、各地にまだ残っている作物のリストアップを続けています。山形県は、それらを使って料理する料理人やレストランも応援しており、経済的にも回る仕組みを早くから作ってきました。

茨城県にも、伝統野菜があります。浮島大根、貝地高菜、赤ネギ等ですが、今後、きちんと調査を進めれば、もっと様々な地域作物が残っていることがわかるのではないのでしょうか。

まとめとして、以下を挙げたいと思います。

◎伝統野菜、在来種、固定種は、その地域の 文化・歴史・風習・暮らしに根付いてきた作物。

◎在来作物を守り、作り、売られるようにし、消費することで、その土地の文化が守られる。

◎消費者の嗜好が変わり、その土地固有の食べ物・料理を好む傾向にある。

◎山形県などは、在来作物を「山形県の宝物」として積極的に保護・プロモーション活用し、観光に役立てている。

今後、ますます、地域独自のものを大切にすることで、結果として他地域や他国からも注目されていく、ということになっていくのではないかと、その先端を担うものとしての「伝統野菜」「在来作物」は面白いと思います。



スマイルボックス

生きているだけでも幸せ♪ その上にうれしいことがあったなら、スマイルボックスへどうぞよろしく♪

池田君 ¥5,000
稀勢の里の優勝を祝して

小野瀬君 ¥5,000
稀勢の里優勝お目出とう

秋田君 ¥3,000
中村君、ようこそ。
渡利先生、食前・食後の面白い話でした。

ご芳志の寄金、
ありがとうございました。

小計 3 件 ¥ 13,000
累計 315 件 ¥1,238,025

例会を欠席される方は当日午前 10 時までに糸賀副SAA（電話 090-1619-2899）に必ずご連絡ください。

RI第 2820 地区・第 7 分區

竜ヶ崎ロータリークラブ

創立:1959 年 11 月 25 日

☆会長・佐伯優 ☆幹事・滝澤健一 ☆SAA・毛利昭男

☆ 例会場:常陽銀行竜崎支店2階 〒301-0011 龍ヶ崎市横町 4209 電話 0297-62-2112

☆ 例会日:火曜日・12:30~13:30

URL: <http://ryugasaki-rc.org/>

☆ スポンサークラブ:土浦ロータリークラブ

☆ 姉妹クラブ:仙台東ロータリークラブ